



Vocal Consort
Tokyo

“Licht - Schein - Lux”

変容する光 — 照らし出された深層

ヴォーカル・コンソート東京 第6回演奏会
指揮 四野見 和敏

第I部 「陽の光」 Tageslicht

Mendelssohn : Lieder im Freien zu singen

メンデルスゾーン: 歌曲集「野に歌う」より

Frühlingsahnung 「春の予感」 / Lerchengesang 「おおひばり」

Auf dem See 「湖上にて」 / Abschied vom Walde 「森を離れて」

第II部 「夜の光」 Nachtpracht

Brahms : Quartette

ブラームス: 4重唱曲から

Der Abend 「夕べに」 Op.64-2 / O schöne Nacht 「おお美しい夜よ」 Op.92-1

第III部 「聖なる光」 Heiligs Licht

M. Lauridsen : Lux Aeterna

ローリゼン: 永遠の光

ドイツ詩の朗読: Josua Bartsch (ヨズア・バルチュ)

ピアノ: Slawek Kowalewski (スワベック・コバレフスキ)

オルガン: 阿部 翠

<http://vctokyo.jp/>

2017年 11月11日(土) 18:00 開演 (17:30開場)
武蔵野市民文化会館 小ホール 東京都武蔵野市中町3-9-11

【チケット】 全席自由 一般前売 ¥3,500 / 当日 ¥4,000 学生 ¥3,000 (要学生証提示)

【お申し込み】 チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード342805)

当団HP(Contact Us) <http://vctokyo.jp/contact.html>

【お問い合わせ】 TEL:090-3982-4055 E-mail: info@vctokyo.jp

【アクセス】 JR三鷹駅北口から 徒歩・・・「文化会館通り」直進13分 バス・・・1、2、4、6番線「市民文化会館入口」下車

主催: 一般社団法人 アートフォーラムNOAN 後援: 株式会社 ハンナ



Vocal Consort Tokyo

ロマン主義と自然、そして崇高なるものへ

自然における光の変化は、人間の様々な感情と呼应し合う。**昼の光**に美しく照らし出された野山や森では、小鳥たちが生き生きと歌う。Mendelssohn は、自然に包まれて生きる人間の感動を伝えている。自然が闇に包まれると、夢想的で神秘的な**夜の世界**が出現し、ドイツロマン派の「昼間は偽りの仮の姿で、夜こそが真実の姿」という心情が高まる。月や星明かりの下で愛やあこがれを、Brahms は甘美な音で幻想的に描く。一方**キリスト教における光**は、神、キリストのシンボルであり、救済、真理、啓示などを示す。Lauridsen の「永遠の光」では、神の愛や恩恵の光が降り注ぐ。

詩の朗読は、音楽と同様に創造的な芸術行為である。作品の世界をより深く、より分りやすく伝えるためヨズア・バルチュ氏がドイツ語の歌詩を朗読する。表情豊かな語りの力で、聴衆を繊細で美しい世界、臨場感あふれる世界へと誘う。その醸し出された雰囲気、合唱団がそのまま引き継ぎ歌う。

Vocal Consort Tokyo(ヴォーカル・コンソート東京)

指揮者の四野見 和敏が 2014 年 2 月に設立した、プロフェッショナルな合唱団。オーディションで選ばれた若手声楽家 24 名で編成されている。ヨーロッパの室内合唱団を手本に、バロックからロマン派、そして近現代のアカペラの合唱曲をレパートリーに持つ。様々な時代の作品に対応するために、その時代が求める時代様式や歌唱法の統一に重点を置いている。この合唱団の響きは Homogenität (同質性・均質性) があり、澄んだ柔らかな音色を持っている。昨年はドイツのドレスデン室内合唱団のメンバーを招聘し、世界に通用する室内合唱団を目指している。



ヴォーカル・コンソート東京 出演メンバー

[ソプラノ] 池田 真紀 金成 佳枝 佐藤 悠子 高山 ゆみこ 長尾 良子
村井 香子 森川 郁子

[アルト] 小此木 里佳 佐藤 智子 新明 裕子 高橋 幸恵 横町 あゆみ

[テノール] 荒木 俊雅 小沼 俊太郎 曾部 遼平 堀越 尊雅

[バス] 阿部 大輔 荒井 渉吾 關 秀俊 堤 智洋

オルガン: 阿部 翠



音楽監督・指揮 四野見 和敏

東京音楽大学卒業後、指揮をウィーン国立音楽大学指揮科教授エステルライヒャー、湯浅勇治に師事する。1999 年ウィーン・マイスタークラスの最優秀指揮コンサートでウィーン・プロアルテ・オーケストラを指揮。好評を博す。ハンブルクに留学し、ハンブルク歌劇場合唱団のもとで、数多くのオペラ合唱の研鑽を積む。またハンブルク音楽大学で教会音楽指揮法及び演奏法を専攻すると共に、デトモルト音楽大学では、ライブツィヒ聖トーマス教会楽長ピラー氏に師事し、バッハ作品の指揮を学ぶ。これまでに東京二期会、関西二期会等で副指揮・合唱指揮を務める。

ドイツ詩朗読:

ヨズア・バルチュ (Josua Bartsch)

1991 年ライブツィヒのメンデルスゾーン音楽大学にて声楽をゴットホルト・シュヴァルツ (聖トーマス教会合唱団音楽監督) に師事。1990 年ライブツィヒ歌劇場で歌手として、バロックから現代音楽まで多様なジャンルの公演に出演した。現在は東京に拠点を移し、舞台やコンサートにおける専門用語としてのドイツ語を教えるかたわら、日本人の若手声楽家にドイツ語の発声法を指導している。1998 年以降は、NHK テレビ、ラジオのドイツ語講座に歌手および講師として出演。「友愛ドイツ・リート・コンクール」では、審査員を務める。

ピアノ:

スワベック・コバレフスキ (Sławomir Kowalewski)

ポーランド生まれのピアニスト。幼少の頃から父親によるピアノレッスンを受け、10 歳でドイツへ移住。オランダの音楽大学アムステルダム・コンセルヴァトワールで Håkon Austbø 教授に指導を受ける。パリ・コンセルヴァトワールでは、ジャック・ルヴィエに師事。ショパンやスクリャーピンを得意とし、その上質な和声、洗練された音色は聴く者を魅了してやまない。ヨーロッパ、アジア各地での演奏活動を経て、現在は東京で映画音楽、テレビドラマの音楽を担当する作曲家としても活躍。1999 年、ドイツ青年音楽コンクールピアノ伴奏部門 第1位